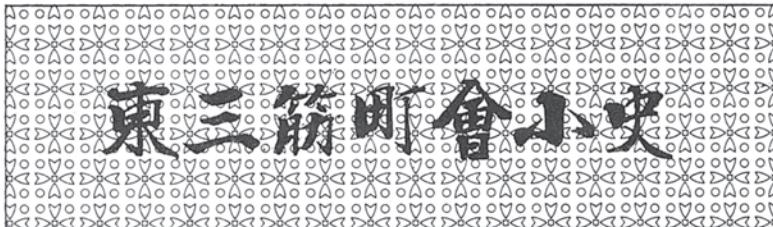


東三筋町会小史



昭和52年11月26日発行

編集責任者
小西久夫

発行 東京都台東区東三筋町会 〒111 台東区三筋2-1-9



初代会長 小西政敬



二代目 奥野大吉



三代目 小西久夫

我が東三筋町会の創始は古く
大正六年五月十二日であります。
震災や戦災等数次の災害
の為め不幸にも詳しい資料は
残っていませんが、古老に聞
た話や新聞の記事等を参考に
綴ってみました。



『町会旗』

戦後三十有余年間、小西政敬氏が町会長を続任したが
戦時疎開の為退き、昭和十九年より二代
目として奥野大吉氏が後を引継がれ、約二十年の永きに
亘り在任。町政の実を挙げられた。
続いて、昭和三十八年十一月九日、現在町会長小西久
夫が三代目として就任し今日に及んでおります。
この様に永年続きの町会長揃いは東京都内広しといえ
ども稀な存在ではないでしょうか。

(昭和27年2月11日付
台東事報御参照)

町会創始 大正六年五月十二日
初代会長 小西政敬

役員 木村太市、杉本英次郎
高橋文次郎、花岡秀次郎

世帯数の移り変り
★ 昭和五年に鳥越神社
が氏子の数を調べた。
記録に依ると三四二戸
である。
★ 現在 (52・10・22)
の世帯数は二二〇戸、
男子一三〇九名
女子一三二四名
計一六三三名
(寿出張所調べ)
但し茲に表示する世帯
数とは、住民登録の口
数であるから、通常世
間で唱へる世帯とは一
寸違うことを御留意願
いたい。

昭和年月日	町会長	副会長	摘要
19	二代目 奥野大吉		
24	"	小西久夫	文化会結成
27	"	"	12月10日、戦後の町会結成
38, 11, 9	"	"	10月1日、町会10周年記念祝典、表彰
"	三代目 小西久夫	酒井右源、渋谷熊蔵、奥野豊彦	
44, 3, 26	"	伊藤竹治	4月9日 明治100年記念祝典、表彰
48	"	"	10月12日、町会20周年記念祝典、表彰
50, 3, 2020	"	梅沢茂	
52	"	"	11月26日、町会創始60周年記念祝典、表彰

◎もっと詳しく全役員について表すべきですが、急ぎの為め後日を期して記録の空白を埋めたいと思います。

町名の由来等について

〔台東叢書下谷浅草町名由来考より〕

一 浅草三筋町一、二丁目、同北三筋町一

浅草三筋町一、二丁目は隅に位置することとなり、

昭和十六年（一九四一）三月一日、誕生した町である。

一丁目は浅草西三筋町、面積は約十二分の一に縮少

同東三筋町、同南富坂町西一部、同南元町西一部、同

榮久町南一部を合した。二丁目は浅草北三筋町の大部

を中心と同栄久町南側一部、にはっきり現われている。

同森下町西一部を合わせた。御府内備考は「三筋町」。

浅草北三筋町は同三筋町二の道があつたことにちなむ

丁目は浅草北三筋町の大部分が、この区画は嘉永図

丁目の起立によって、ほとんどがその内になつたため

著しく町域をせばめた。從長に並びあるゆへ此名あり。

来の町域からすると、西北同心の大組屋敷三区、堅

浅草北三筋町は同三筋町二の道があつたことにちなむ

丁目は浅草北三筋町の大部分が、この区画は嘉永図

丁目の起立によって、ほとんどがその内になつたため

著しく町域をせばめた。從長に並びあるゆへ此名あり。

来の町域からすると、西北同心の大組屋敷三区、堅

浅草北三筋町は同三筋町二の道があつたことにちなむ

丁目は浅草北三筋町の大部分が、この区画は嘉永図

丁目の起立によって、ほとんどがその内になつたため

著しく町域をせばめた。從長に並びあるゆへ此名あり。

来の町域からすると、西北同心の大組屋敷三区、堅

浅草北三筋町は同三筋町二の道があつたことにちなむ

丁目は浅草北三筋町の大部分が、この区画は嘉永図

嘉永3年（1850年）版 浅草鳥越堀田原辺絵図より

るものあり。」と記して、三区画の屋敷地があつたから

だという。しかし、嘉永図によると、与力同心の屋敷地は四区にわかれていった。その敷地は四区にわかれていった。過程の中で、浅草東三筋町

屋敷地が三筋になつてから、と同西三筋町が起立した。

明治五年（一八七五）八月

は説明を略す。

明治維新後、江戸期の武家地は整理されて市街地に組

トとしている。

浅草北三筋町は江戸期書

院番組屋敷地及び武家屋敷

を示すと、左の図のよう

地であった。明治五年八月

新しくこの名を付したので

ある。里俗三筋町といつて

いた地の北側隣接地だった

ので、北三筋町と称したの

だった。

今回、の住居表示制度の実

施に基き、浅草三筋町一、

書院番大番与力同心組屋敷

述べているのに従つておき

たい。同書によると、浅草

東三筋町には幕府書院番組

屋敷があり、同西三筋町に

は大番組屋敷があつた。書

院番組 大番組については

西町の項で述べた。ここで

大番組屋敷地——浅草西三筋町

（里俗三筋町）

江戸期 明治五年八月

昭和十六年三月一日 昭和三十九年一月一日

二丁目、同北三筋町は再び変つた。江戸期から住居表示制度が実施された昭和三十九年一月一日までの変遷

と記している。

浅草北三筋町は江戸期書

院番組屋敷地及び武家屋敷

を示すと、左の図のよう

地である。

新設された。昭和三十九年一月一日住

居表示の決定

（例）実於前 東京都台東

区三筋町一丁目五番地

実於後 東京都台東

区三筋二丁目一番九号

江戸期 明治五年八月

昭和十六年三月一日 昭和三十九年一月一日

思　い　出

住居表示変更の為め三筋町の電車の停留所名が、突然寿二丁目に変つて驚いた。我が三筋町の町名は変わらないのに停留所名だけが変るとは…。急速隣町の藤沢さん、大野さん等と共に時の都議会議員中田俊一先生に御願いして三筋二丁目に戻して貰つた。お蔭で都電は無くなつた今日でもバス停として残つてゐるのも過ぎし日の思いである。

（小西）

東三筋町会小史

昭和27年2月11日 台時報

町内めぐり

三筋町一丁目東



町
史

三筋町一、二、三丁目は昭和十一年の町名改廢に依つて付せられた名であるが、それまで北三筋、西三筋、東三筋の三町を受けついだものであつて現在の三筋町一丁目は、以前の東三筋町区域の大部分で占められている、この三筋町の三ヶ町は共に慶安四年幕府書院番組屋敷、大番組屋敷となつたが、全町に三條の私道が設けられたので浅草三筋町

東の三町に區分されたもので、市街地として發展したのはその以後のことである。

明治五年八月、組屋敷及び松平内記、戸田中務、松本次郎等の邸宅地と合せて市街地となし、前記北、西、東の三町に區分されたもので、市街地として發展したのはその以後のことである。

町の自治

東三筋町の區域内で町會組綱が出來たのは大正六年五月十二日で、木村太市、杉

役員名簿

(敬称略)

歴代役員の移り變りを系図様式に表したいと思ひましたが資料と期間がないため取敢ず現

在のものを記します。(昭和52年10月10日現在)

名譽会長 渡谷 茂 蔵

副会長 小西 久夫

伊藤 野彦

竹治

会計監査

押小梅

田林沢

国圭

藏二茂

青文化部

少部

厚部

長年長

生長

星柏

小中

星野

谷林

村野

軍芳

圭主

司雄

二松

吉彦

婦人部長

会館管理

防火部

飯伊

伊小

野藤

藤寺

上原

正太郎

参与

柳圭

清治

木みやゑ

竹治

エイ

3班

副班長

立小

康民

敬介

圭雄

司

13班

副班長

12班

副班長

11班

副班長

10班

副班長

9班

副班長

8班

副班長

7班

副班長

6班

副班長

5班

副班長

4班

副班長

3班

副班長

2班

副班長

1班

副班長

班長

長は理事



本英次郎、高橋文次郎、花岡秀次郎、小西政敬の五氏が發起人となり、東三筋町會として組織を整え町會長に小西政敬氏を推したが爾來一回も町會長が変らず三十年の久しきに亘つて小西氏が町の中心に立つてよく衆望をあつめ、町治の發展を圖つて來たといふことは全く他町に類例のないことであつて、その間小西氏を助けてよく町の世話を

しておき、副会長には故政敬氏の息小西久夫氏が推され會計には井村梅吉氏が就任しておき、現在町内の世帯數百七十戸全部が会員となり会費は最高四百圓からなり最も会費は最高四百圓からなり会費は最低五十圓まで。一世帶平均百五十圓を以て町内の祭禮、親睦其他公共支出等の一切に充てておき、町内を十四班に分け各班から一名づつの理事を互選し十四名づつの理事を互選し十四人の理事が正副會長と共によく町内世話に任じておき、更に同会の顧問として頼每木眞六氏を推しているが、頼母木氏も熱心に町内の親和とその發展の爲めに奥野氏等に協力して町民の

信頼を深めつつある、過般町内に文化會館建設の議が起るや、全町こそつてこれに協力し総額百十餘萬圓を貯蓄して工事に着手、本年一月十五日開館式散後も以前の町内地區内に運びとした、同日開館式に土間と八疊一間で階上には三木區長、前野藏前署の會長に推され今日に及んでいよいよ町治の基礎を築き、町會解散後も以前の町内地區内に親和會を組織して直ちにその會長に推され今日に及んでいよいよ町の世話を

町治の基礎を築き、町會解散後も以前の町内地區内に親和會を組織して直ちにその會長に推され今日に及んでいよいよ町の世話を

町治の基礎を築き、町會解散後も以前の町内地區内に親和會を組織して直ちにその會長に推され今日に及んでいよいよ町の世を

町治の基礎を築き、町會解散後も以前の町内地區内に親和會を組織して直ちにその會長に推され今日に及んでいよいよ町の世を

町治の基礎を築き、町會解散後も以前の町内地區内に親和會を組織して直ちにその會長に推され今日に及んでいよいよ町の世を

町治の基礎を築き、町會解散後も以前の町内地區内に親和會を組織して直ちにその會長に推され今日に及んでいよいよ町の世を

町治の基礎を築き、町會解散後も以前の町内地區内に親和會を組織して直ちにその會長に推され今日に及んでいよいよ町の世を

東三筋町会小史



〔写真上〕昭和32年 お祭礼

〔写真下〕昭和27年頃、戦後の町会結成を機に精華公園で町会主催の運動会を開催。

敬老会を来賓に御招きした。在りし日の頬母木先生、奥野会長の元気な姿が懐しい。